

触宴



大和のどか
陸上部二年

彼女はつい最近
この土地に
引っ越してきた

大和センパイ
先失礼しまーっス

おー
おつかれー

センパイは
まだ残って
走るんスか？

あー、うん
大会近いし

あの……
夜までには
帰って
くださいね……？

この土地には
ある都市伝説がある

夜遅くに
山に入っては
いけない

※この物語はフィクションです。
実在の人物、団体、事件等とは一切
関係ありません。



大昔、
この土地の平和を願って
若い娘を山奥の祭壇に
奉られている
土地神に捧げる
風習があつたらしい

捧げられた娘は
土地神の御身体と交わる
戻ってきた娘も
戻らなかった娘もいた
—いつしか、その風習は廃れ
消えていった

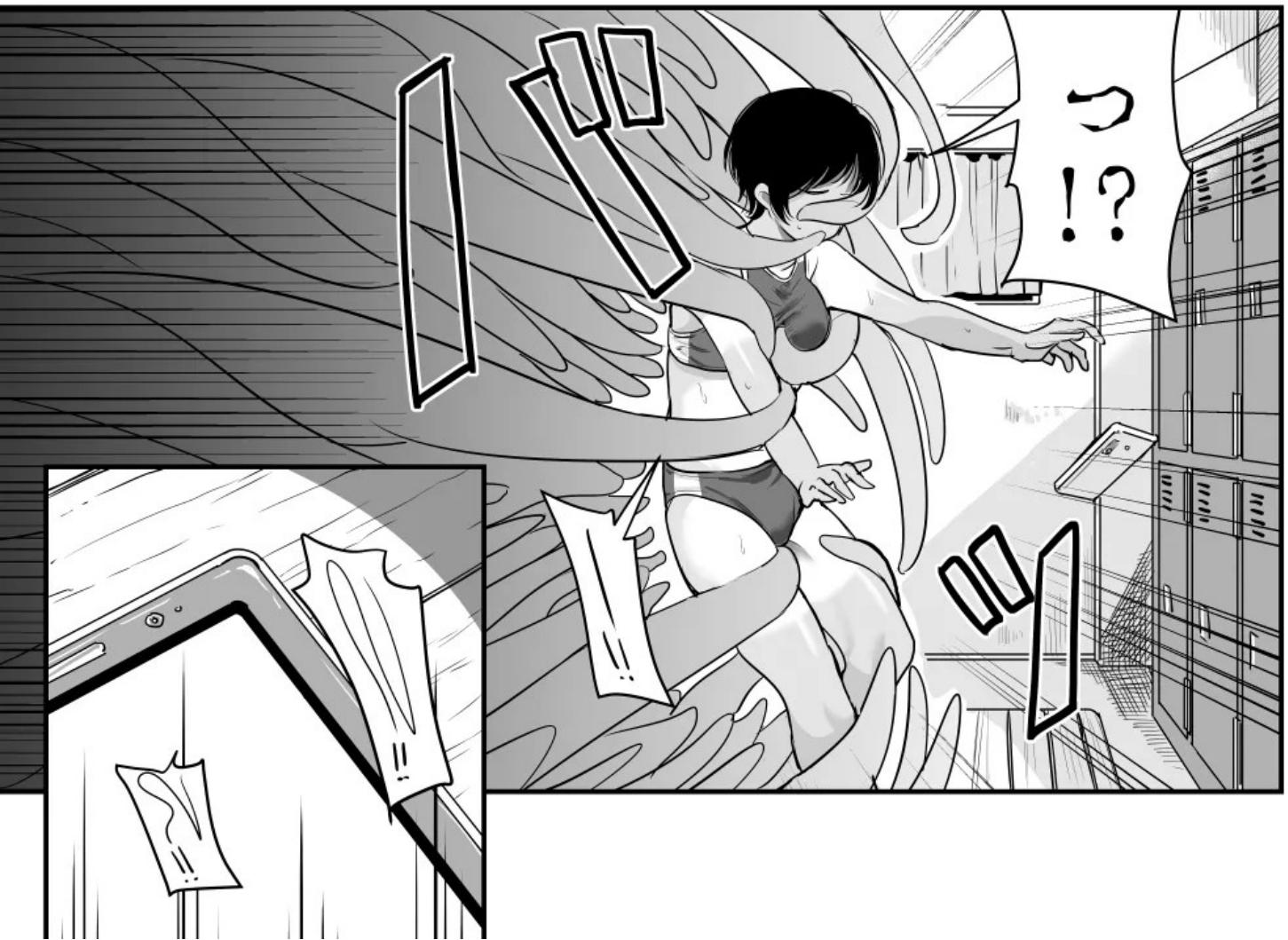
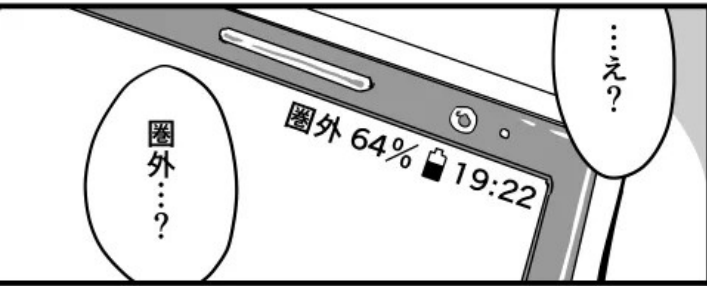


—ある時期から
山奥や山の近辺で
失踪事件が多発した
犯人は不明
消えるのは
決まって若い女性

かつての風習に
なぞらえて
いつしか都市伝説として
噂されるようになった



土地神様に攫われた、と





だったら……
なんとかして
逃げないと……

このままじゃ……

私

犯されー

やっ……

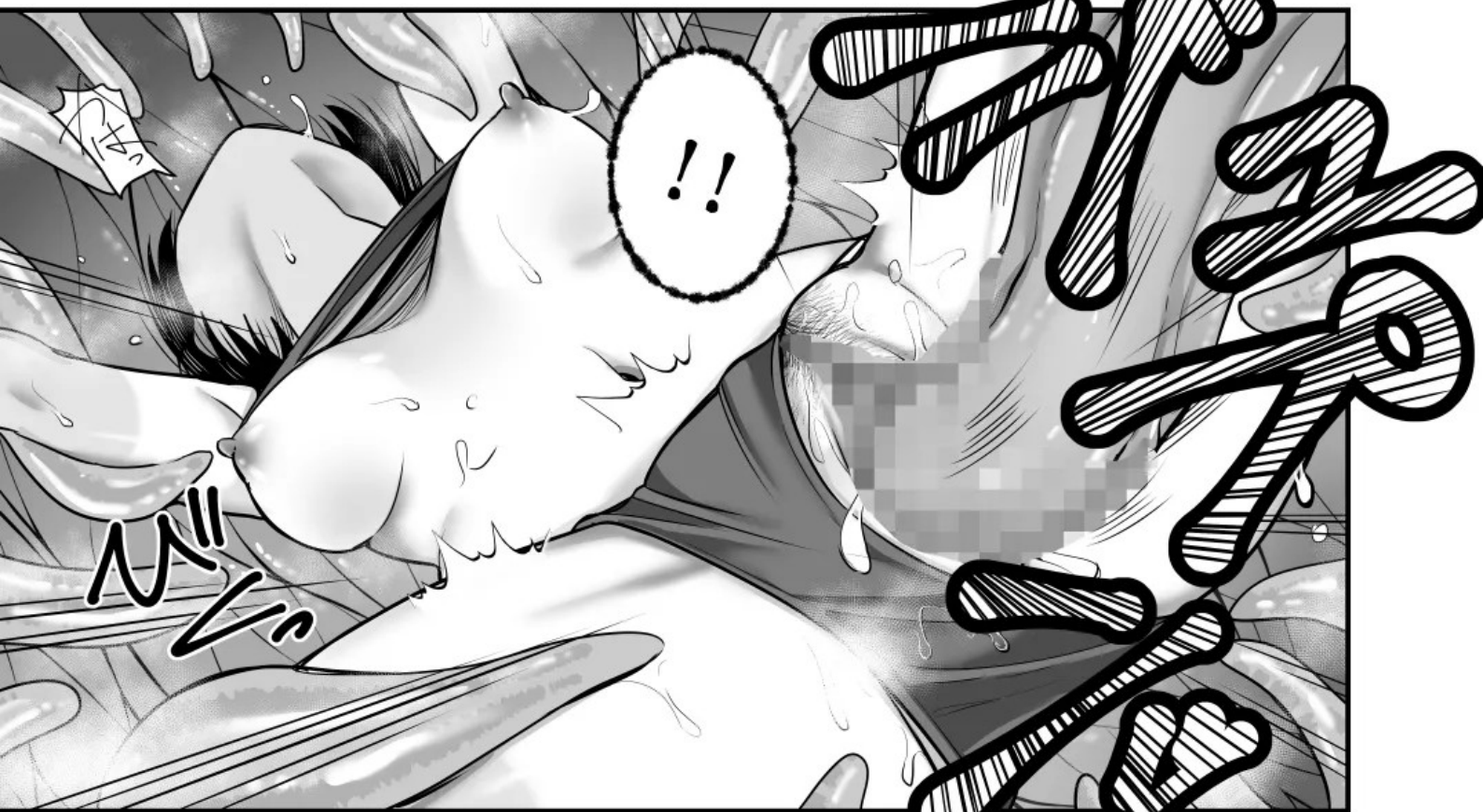














こん...なっ

あ!?

嫌なのに...!

気色悪いのに...!









[illegible]

...もう逃げられないなら...

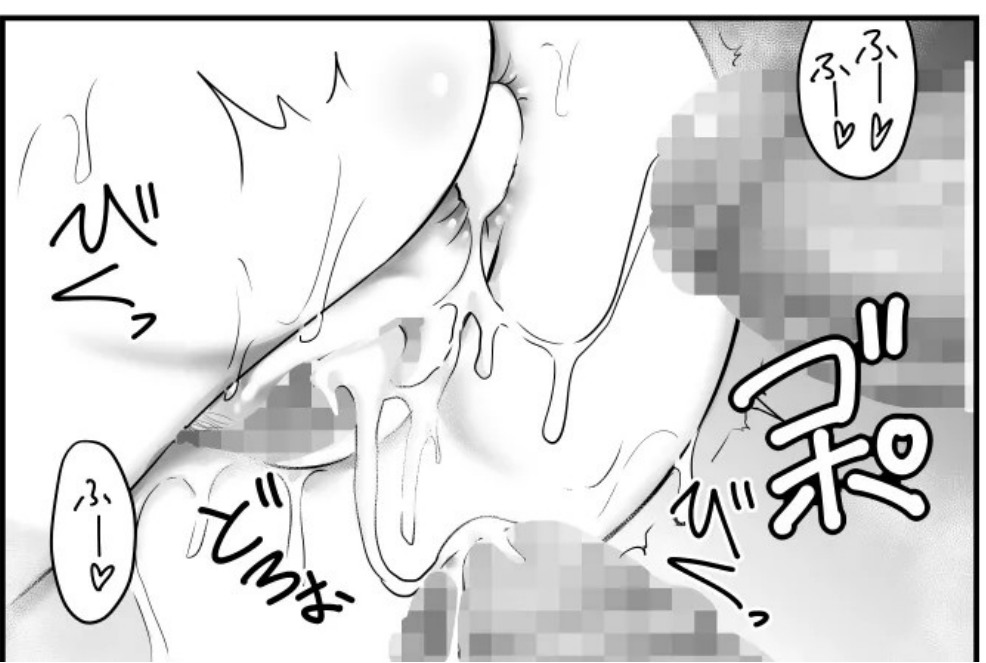
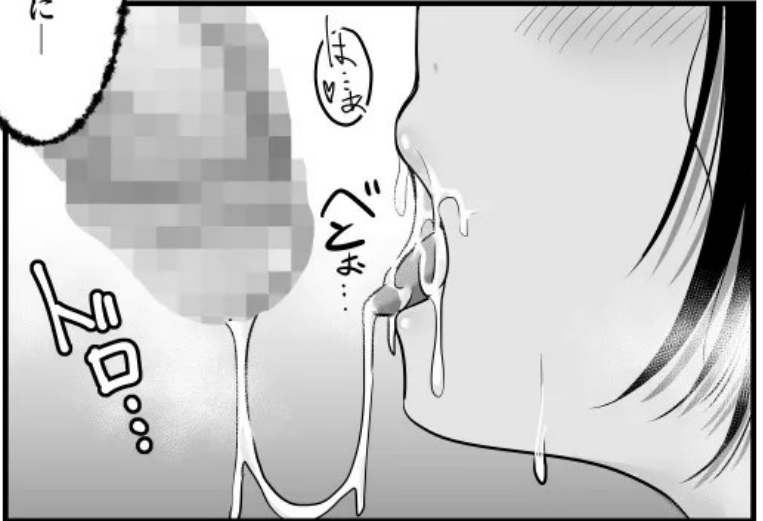
ぐわっ

ぐわっ

だったら...いっそ...



この快楽に――







数日後
捜索届が
出されたが

彼女が戻って
来ることは
無かった



「触宴」

作 海老パン/れんこんオクトパス

※この物語はフィクションです。
実在の人物、団体、事件等とは一切
関係ありません。

※本作品の無断転載、複製、インターネットへの
アップロードを禁じます。



ご購入いただき
ありがとうございました！

海老パン



れんこんオクトパス